



実用新案登録願 A

1,500円)

昭和47年6月12日

特許庁長官 井土武久 殿

ガタコツセツコウバン

1. 考案の名称 アンダル型骨接合板

2. 考案者 プロテクションズ

住所 東京都文京区本郷込6丁目1番5号

氏名 伊藤忠厚 の501

3. 実用新案登録出願人 プロテクションズ

住所 東京都文京区本郷3丁目29番10号

氏名 瑞穂医科工業株式会社

(因) 代表取締役 横本正勇

4. 代理人 人 丁

住所 東京都文京区本郷4丁目9番32号

氏名 (5911) フル士 千ヶ崎 実男

5.添付書類の目録

(1) 明細書	1通
(2) 図面	1通
(3) 領書副本	1通
(4) 委任状	1通

49-28687-01

明　　細　　書

1. 考案の名称 アンダル型骨接合板

2. 實用新案登録請求の範囲

骨接合板にアンダル型の折曲げ側縁を設けた
骨接合板

3. 考案の詳細な説明

骨折を接合する骨接合板は従来、平板状または彎曲状であつて、この接合板を骨折部を股いで骨に当て、骨接合板上より螺子で骨に繕付固定している。

しかし、この種の接合板では、骨接合部に外力が加わった場合、骨接合部に横ズレまたは回旋が生じ易く、骨接合の快復に悪影響を及ぼすおそれがある。

本考案はこのような欠点を解消するために、骨接合板の側縁に、アンダル状の折曲げ刃を形成して、この折曲げ刃部を、骨折部の接合骨の双方に埋設させ、接合板は従来のものと同様にその上面から螺子で、骨接合部の双方の骨に繕付固定するようになしたものである。

49-28687-02

本考案を図面により説明すれば、第1図は本考案による骨接合板の平面図、第2図は第1図のA—A断面図、第3図A、Bは第2図のB—B断面図を示すもので、A図は骨接合板の上面が彎曲したもの、B図は上面が平面のものである。第4図は本考案による接合板を骨折部に固定した状態を示す斜視図である。

図中1は骨接合板2に穿設した骨接合螺子の挿入穴、3は骨接合板の側縁をアンダル状に折曲げた刃部である。

本考案の骨接合板は従来の骨接合板と使用目的は同じであるが、骨折部の骨4、5に電動カッター等で、第4図に示す如く縦方向の溝6を設け、この溝の中に接合板の折曲げ側縁の刃部3を押込み、双方の骨4、5を接合させた後、接合板2の上部より螺子7を双方の骨4、5にねじ込み、接合板を双方の骨に縫付固定するものである。

以上のように、アンダル状に折曲げた接合板の側縁刃部を骨折部の双方の骨内に埋設した後

に、接合板を上部から双方の骨に蝶子で縫付固定すると、双方の骨が外部からの衝撃等によつて横方向にズレようとしても、又回旋しようとしても、この埋設した側縁によつて、これらの作用は阻止されるので、接合板を当てた後において、骨接合部の骨接合面がズレたり、又離れるようなことがなく、従つて骨の接着快復上、好結果をもたらすものである。更に又本考案の接合板はアンダル形状になつてゐるため、従来の平板の接合板と比し機械的強度が大で、それだけ軽量のものを使用できる等实用上の効果大なるものである。

＊図面の簡単な説明

第1図は本考案による骨接合板の平面図、第2図は第1図のA—A断面図、第3図A、Bは第2図のB—B断面図で、A図は接合板の上面彎曲のもの、B図は上面が平面のものを示す、第4図は本考案による骨接合板を骨折部に固定した状態の斜視図を示すものである。

2……骨接合板 3……アンダル状に折曲げた側縁刃部

4、5……骨折部の骨 6……縦方向の溝 7……骨接

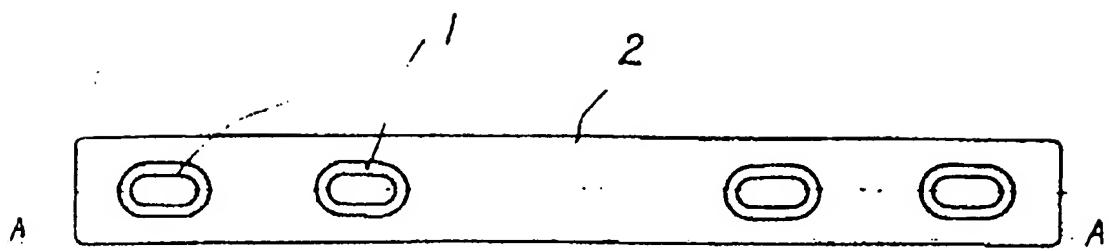
合螺子

实用新案登録出願人 瑞穂医科工業株式会社

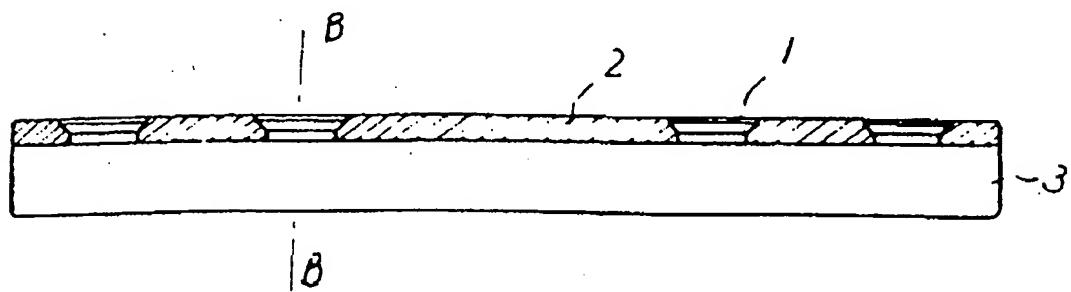
代理人 施理士 千ヶ崎 宣男

49-23687-05

第1圖



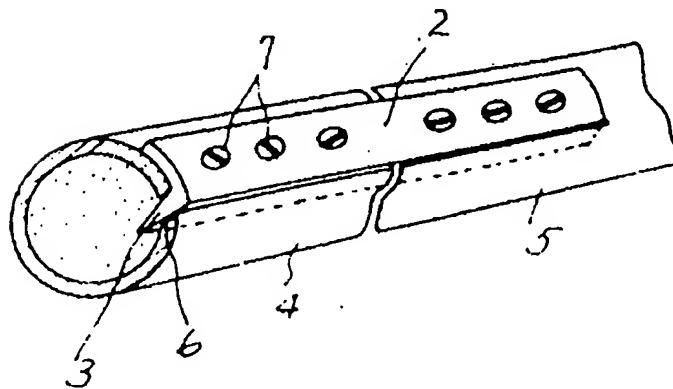
第2圖



第3圖



第4圖



实用新型专利权人: 瑞德医疗技术有限公司
代理人: 陈锐士
49-23687-06

28687